

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	専攻科医療秘書専攻		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床医学各論Ⅶ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	専攻科医療秘書専攻		学期及び曜時間	前期 水曜4限	教室名	
担 当 教 員	笠 陽子	実務経験と その関連資格	病院に28年間看護師として勤務。整形外科病棟、内科病棟、皮膚科耳鼻科形成外科混合病棟、人工透析室に勤務。主業務は患者の療養上の世話と生活指導を行っていた。1ヶ月のみデイサービス経験有り。			
《授業科目における学習内容》						
周産期(産科、婦人科)の代表的疾患中心に重要ポイントの知識の獲得を目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
科目終了試験70% 出席評価20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
診療情報管理テキスト「臨床医学各論Ⅶ」(周産期系) 日本病院会 編 パワーポイントを用いた視覚資料併用 授業終了前、確認小テスト						
《授業外における学習方法》						
関心のあるテーマについて、専門雑誌や文献などを使って勉強すること。 指定した教科書を事前に読んでおくこと。 毎回授業終了前、授業内容理解の確認のため小テストを実施するので、授業は集中して聞いておくように。						
《履修に当たっての留意点》						
妊娠、出産、人の生命の尊さ等をじっくり勉強しましょう!						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠、周産期の病態、について説明できる。	教科書、パワポ、 授業終了前、確認小テスト実施	教科書範囲を事前に読んでおく。 授業内容を復習する。	
		各コマにおける授業予定	生殖器の解剖生理、妊娠のメカニズム、について理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	異所性妊娠、胎状奇胎、流産、妊娠高血圧症候群、について説明できる。	教科書、パワポ、 授業終了前、確認小テスト実施	教科書範囲を事前に読んでおく。 授業内容を復習する。	
		各コマにおける授業予定	異所性妊娠、妊娠高血圧症候群について理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	胎児・羊膜腔に関連する母体ケア及び分娩の諸問題について説明できる。	教科書、パワポ、 授業終了前、確認小テスト実施	教科書範囲を事前に読んでおく。 授業内容を復習する。	
		各コマにおける授業予定	多胎妊娠、妊娠の経過の合併症について理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	周産期や陣痛の異常について説明できる。	教科書、パワポ、 授業終了前、確認小テスト実施	教科書範囲を事前に読んでおく。 授業内容を復習する。	
		各コマにおける授業予定	前置胎盤、陣痛、早産、子宮裂傷について理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の異常、新生児の病態について、適切に説明できる。	教科書、パワポ、 授業終了前、確認小テスト実施	教科書範囲を事前に読んでおく。 授業内容を復習する。	
		各コマにおける授業予定	弛緩出血、産褥熱、低出生体重児、新生児仮死について理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの授業のポイントを理解することができる。		<ul style="list-style-type: none"> 教科書範囲、授業プリントの内容を復習する。 小テストの内容をよく覚えておく。
	講義形式	各コマにおける授業予定	テスト		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
	講義形式	各コマにおける授業予定			